

# 椎の苗木通信



木城の明日を担う心豊かでたくましい人づくり

(木城町教育大綱の基本理念)

## 薬物乱用防止教室

6月14日(水)5校時に、本校の体育館で薬物乱用防止教室がありました。



当日は高鍋警察署の方がプレゼンテーションで覚せい剤の恐ろしさの写真やDVDを提示しながら講話をされました。甘い言葉に誘われて、覚せい剤やコカインなどの薬物に手を染めると、体に支障をきたし、死にいたることもあるということです。薬物を止めたらフラッシュバックなどの症状が起こり通常の生活ができなくなると言われています。

くれぐれも薬物には気を付けて、誘われてもしつかり断る勇気をもってください。

## 地区中学校総合体育大会結果

(敬称略)

#1 軟式野球

- 1回戦：対 三納中 2-1 勝利 [6/3(土)]
- 2回戦：対 高鍋西中 7-1 敗退

[6/4(日)]

夢・力・花いっぱい

木城町立木城中学校

Tel 0983-32-2028

Fax 0983-32-4191

#2 水泳[中嶋 素羅(2年)] [6/3(土)]

県大会出場

- 100M 女子 平泳ぎ 3位 1分33秒23
- 200M 女子 平泳ぎ 5位 3分23秒72

#3 サッカー [6/10(土)]

- 1回戦：対 富田中 1-0 敗退

#4 卓球

団体戦 [6/10(土)]

男子 5位 女子 6位

個人戦 [6/11(日)]

小川直斗(3年) 5位 県大会出場

#5 ソフトテニス

団体戦 [6/10(土)]

対 三納中・新田中 敗退

個人戦 [6/11(日)]

松尾礼奈・平木彩夏ペア(3年) 準優勝

県大会出場

#6 柔道

男子個人戦 敗退

女子個人戦 2位 中武心咲(1年)

県大会出場

#7 陸上 [6/19(月)] 県大会出場

低学年男子 4×100mR 2位 52"2

高山幸輝・小野舜介(2年)

森竹翔愛・南村悠翔(1年)

共通男子 3000m 4位 大山和輝(2年)

10'39"6

- 共通女子 1500m 2位 高山奈穂(1年)  
5'30"0
- 共通男子 400m 3位 小野舜介(2年)  
1'00"9
- 共通男子 走高跳 1位 小野舜介(2年)  
1m28
- 共通男子 走高跳 2位 牧草大和(1年)  
1m15
- 共通女子 走高跳 1位 鈴木萌香(3年)  
1m25
- 共通女子 砲丸投 4位 鈴木萌香(3年)  
7m45
- 1年男子 100m 1位 森竹翔愛(1年)  
12"9
- 2年女子 800m 2位 濱砂慧花(2年)  
2'37"0
- 1年女子 800m 4位 高山奈穂(1年)  
2'41"5
- 2年男子 1500m 4位 森崎眞人(2年)  
5'10"7
- 1年男子 1500m 3位 牧草大和(1年)  
4'59"1

各競技とも全力で取り組んでくれました。また、県大会に出場する選手の皆さんは、木城中学校、東児湯の中学校の代表ですので、コンディションを整えて競技に参加して、よい結果を納めてもらいたいと思います。

- [行事等] 期末テスト: 6/26(月)~6/28(水)
  - 職場体験活動(2年) 7/6(木)・7(金)
  - 校外学習(1・3年) 7/7(金)

## 校長雑感

### スーパー中学生の活躍に思う

中学3年でプロの将棋士、藤井聰太四段の快進撃が止まらない。先日、最多連勝記録28にとうとう並んだ。連勝はまだまだ続きそうな勢いである。卓球では、中学2年の張本智和選手が、世界の一線級の選手を相手に驚くべき成績を残している。中学生ながら日本代表に選ばれ、こちらも将来が楽しみである。

中学校教育に関わってきた者として、彼らの活躍には興奮を覚え、(私が彼らに何かをしたわけではないけれど)なんとなく誇らしく、そして応援したくなる。そして、一体、どんな育ち方をしてきたのだろうと考えてしまう。

藤井四段は、小さい頃から将棋でも遊びでも、他のことに注意がいかなくなるくらい熱中する子だったようである。母親は「何かに集中しているときは極力邪魔しないようにしてきた」のだそうだ。(親としては羨やましい...) そのようにして幼少期から培われた「集中力」が、現在の「隙のない強さ」をつくっているのだと思われる。

先日、現役引退した、加藤一二三九段(この人もまた、藤井四段以前の最年少プロ棋士の記録をもち、天才と呼ばれた)は、藤井四段のプロデビュー戦で対戦し、その後の彼の活躍を見守る中で、「とにかく研究熱心である」と述べている。すなわち、強くなるための「日々の努力」を怠らないのだ。

また、加藤九段は、彼の「礼儀正しさ」についても語っている。将棋の対局は長時間に及ぶため、途中で菓子等を口にするのは普通のことで、それは本来、自分の好きなタイミングでとればよいのだが、藤井四段は、加藤九段が菓子を口にするのを見て、ようやく自分も手を伸ばしたのだそうだ。目上の者への気遣いができる、礼儀正しい人物であるということを教えてくれた。しかし、加藤九段の言葉を借りるまでもなく、藤井四段の礼儀正しさ、謙虚さは、試合後のインタビューの言葉や態度からもにじみ出てくるものがある。

藤井四段には、もともと類い希な才能があったのだろうと思う。しかしその才能も「集中力」や「日々の努力」、「礼儀正しさ・謙虚さ」があっての開花ではないかと思われる。

木城中の生徒の皆さんにも、多かれ少なかれ色々な才能が眠っているのだと思います。そして、それを開花させられるかどうかを、藤井四段に学ぶことができるのではないでしょうか?

藤井四段は中学生なので、学校に通いながら、定期テスト等も受けながらの28連勝の達成である。彼のことだから、テスト勉強も決して手を抜かなかつたことだろう。

連勝というのは、いつかは止まる日が来る。しかし、彼はその日を、次の段階の強さへ向かう一つのステップとするに違いない。